

「研究テーマ」

おたがいの思いを大切にし、伝え合い高め合う子どもの育成をめざして  
～新聞を通し、人と出会い 人とつながろう～

宍粟市立都多小学校 校長 久保 欽哉  
教諭 福井 充

## 1 はじめに

本校は播磨北西部の山間地域にある全校児童43人の小規模校である。校区は少子高齢化に加え、過疎化の影響を受け人口が減少してきてはいるが、家庭、地域の学校教育に対する関心は高く、教育活動にも協力的である。児童は幼少時からの顔見知りほとんどであり、明るく穏やかな学校生活が送れている。しかし一面では、異なる意見を交流し合っ  
て考えを深めていくような学習活動には積極的に取り組みにくく、交友関係も固定化しやすい傾向が見られた。そこで、NIE実践校の指定を受けるにあたり、昨年度は「新聞を活用し、自分の意見を仲間に伝え合うことの楽しさを体験する」というテーマを設定した。昨年度の実践を土台に、本年度は「新聞を通し、人と出会い、人とつながろう」というテーマで、新聞を活用して人と進んで関わり、人間関係を柔軟に広げていく力を育てることをめざして取り組んだ。

## 2 具体的な実践

### 【1年生・2年生の取り組み】



低学年では「みんなで楽しく新聞を使おう」に重点を置き、教科の学習や学級活動と関連づけて取り組んだ。1年生では国語科で習ったカタカナや漢字を新聞の中から探し出す活動を行った。友だちと楽しく競い合いながら、国語科の学習の復習をするとともに、自分が必要とする情報を新聞から取り出す力を育てていく活動につながった。図工の造形活動では、新聞紙面を素材として活用し、自分だけのおしゃれな服作り

に取り組んだ。できた作品は廊下に並べて、ミニファッションショーを行った。ずらりと並んだ作品は、どれも工夫が凝らされており、他学年の児童からもその出来栄を称賛する声が聞かれた。

学級活動や生活科の中では、「新聞を使ってみんなで遊ぼう」をテーマに、5月のお誕生日会では新聞で兜と剣を作り、みんなでチャンバラごっこをしたり、1枚の新聞がどれだけ細く長く裂いていけるかを競う「新聞びりびりゲーム」をしたりして楽しんだ。また、読み聞かせに来てくださる読書ボランティアさんからも、折りたたんだ新聞を切り抜いて、長くつながった人の形を作る「切り抜き遊び」を教えていただいた。長くつながった作品をクラスの全員でつなげて共同作品に仕上げ、その長さとお出来栄に驚きつつも満足そう

な笑顔を浮かべる子どもたちであった。

### 【3年生の取り組み】

3年生では国語科の「三年とうげ」の学習で、4コマ漫画の吹き出しの言葉を考える学た。4コマ漫画は、物語の起承転結の流れをのに適した資料であり、「三年とうげ」のスト流れを整理するのにも役だった。児童は吹きりの学習で、話の展開をおもしろくしようと一生懸命に吹き出しのセリフを考えた。中には1人で5つもの展開を考えつく児童もいた。



に合わせ  
習を行っ  
理解する  
ーリーの  
出しづく

### 【4年生の取り組み】

自分が興味を持ってスクラップした新聞記事の内容を要約して、わかりやすく人に伝え、おたがいの感想や意見を交流させることを通し、自分と他者の感じ方や価値観の違いを確かめ合う活動を行った。新聞記事の要約は、国語科の授業で扱うテーマである。4年生の児童にとって、新聞記事は難読漢字も多く、要約することが難しい。このため、資料として取り上げる記事は、地域版やスポーツ面などの身近で児童の興味をひく内容のものを選んだ。また、感想を交流し合う活動では、クラスの仲間だけでなく、教師、家族にも対象を広げ、より多くの人の考えや価値観に触れる機会を持つようにした。

### 【5年生の取り組み】

国語科の「新聞を読もう 新聞を作ろう」の学づけて、自分たちが自然学校で体験したカヤック出来事を記事に書き表し、それを読み手に伝わりうにレイアウトする活動を行った。児童は、「見出



習に関連  
教室での  
やすいよ  
し」「リー



ド文」「本文」「写真」などの役割を意識しながら、それぞれに工夫を凝らしたレイアウトを行った。出来上がった作品の発表会では、自分の作品の工夫した点や、困ったところを発表するだけでなく、友だちの作品から学んだことや、友だちへのアドバイスも含めて活発な意見交流が見られた。なお、この活動には NIE 事務局の方にも参加していただき、レイアウト作業中や発表会での活動を支援していただいた。専門的な観点からの的確なアドバイスをもらい、児童は新聞づくりに対する意欲をよりいっそうかき立てられた様子であった。

## 【6年生の取り組み】

6年生では総合的な学習の時間に「ふるさと学発見！都多の里」というテーマを設定している。る史跡やゲストティーチャーのお話から地域の歴史の学習活動である。この学習の中で学んだことを手段として歴史新聞の作成を進めた。この活動でに要点を置いた。

- ①読者を意識した見出しと文章の書き方
- ②真の効果的な活用
- ③友だちとの話し合いによる記事作成

歴史新聞づくりでは「読み手」の存在を意識しながら、大切だと思ったことや印象に残ったことをまとができた。また、語尾や表現を工夫することで学ん「聞いたこと」「見たこと」「感じたこと」などにはつけながら整理できた。児童はデジカメを持ち新聞用のっていたのだが、記事の編集作業に取り組む中で、記事を伝わりやすくするための写真の撮影アングルについても考えることができた。



習・歴史地域に残史をたどまとめるは次の点



ら、学習とめるこだ事柄をきりと分写真を撮

## 【児童会活動の中で】

### 『新聞ネーム総選挙』



昨年度は「新聞グランプリ」と題して新聞紙面から写真を切り抜き、友だちに伝える活動を行った。本年度の活動について児童は、絵や写真だけでなく、記事に目を向けられるよう目標をステップアップさせようと話し合った。

そこで今回は記事内容ではなく、文字を使った活動とした。新聞紙面の中から文字（漢字・ひらがな・カタカナ、高学年児童はアルファベットも可）をピックアップし、本校児童、職員の名前をできるだけ多く作ることにチャレンジさせた。ルールは、家庭の新聞と新聞無料配達期間中に学校に届く新聞を1人につき1部割り当て、そこからお目当ての文字を探し出すというわかりやすいものであった。小さい文字の切り抜きは難しいので大まかに切り、使う文字を丸で囲むようにすることで作業を進めやすくした。応募作品はみんなが見られるように廊下に一斉に掲示したのだが、この段階で意外な気づきがあった。それは「自分の名前を見つけてくれていると、うれしい気持ちになれる」ということであった。実際、児童も職員も作品を見る時に自然と自分の名前を探していた。実施前は考えていなかった効果であるが、「見つけてもらった、うれしい」という気持ちが児童の人間関係を広げることにもつながると感じた。

## 【PTA活動の中で】

### 『夏休み家族新聞コンクール』

新聞を家族で楽しみ、新聞を通して家族のコミュニケーションをよりいっそう深めたいという思いで、PTAとも連携して「夏休み家族新聞コンクール」を実施した。



新聞名はもとより、夏休みの出来事、家族の紹介やペット自慢、4コマ漫画やクイズなど、記事内容には制約を設けず、オリジナリティーあふれる楽しい新聞を家族みんなで分担して、模造紙1枚に執筆しようというものである。なお、完成した新聞は、休み明けには「家族新聞発表会」を開き、児童・保護者

の方の前で作品を発表するとともに、運動会では保護者・地域の方の前でも展示し、優秀な作品を表彰することとした。

保護者に対してはホームページや配付資料を活用して制作・編集のマニュアルを伝えるとともに、児童に対しても学年ごとに取り組み方を指導した。

初めて取り組む企画であり、保護者にとってもあったことと思われるが、夏休み明けにはすばらが出そろった。発表会では児童が家族と一緒に作の新聞をうれしそうな笑顔を浮かべながら一生懸命の姿が印象的で、その様子からは新聞作りを通家族で交わされた明るく楽しい会話が聞こえてくあった。



戸惑いが  
しい作品  
った自慢  
命に紹介  
して親子、  
るようで

運動会当日の一般公開でも、地域の方から完成度を称賛する声が聞かれた。また、運動会の午後のプログラムの開始前には、優秀作品の表彰式が行われ、受賞ファミリーはたくさんのお客から拍手をおくられた。

## 3 成果

NIE実践校の指定を受けて2年が過ぎた。取り組みを続ける中で、新聞が学校の教育活動の中で優れた力を持ち、幅広い分野で活用可能な教材・資料であることにあらためて気づかされた。本校ではこの2年間、新聞を「児童の表現力とコミュニケーションの力を高め、人間関係を広げていく」ために活用してきた。特に本年度は、これまで述べてきたように、新聞を通して周囲の人と関わり、そのつながりを広げることがめざした取り組みに力を入れたつもりである。

どの実践においても教師と児童、保護者が、結果や形にとらわれすぎず、自由な発想で新聞を活用することを心がければ、参加者全員が楽しみながら発見の喜び、感動、感じたことや考えを伝え合い、人と人のつながりを深めることにも役立つと感じた。

この2年間の経験を生かし、本校ではこれからも新聞を単なる情報メディアにとらえず、人と人をつなぐ使い勝手のよいツールとして活用していきたいと考えている。